



希望の鐘 2022

やる気・思いやり・根気・元気

学校教育目標：「人と人とのつながりの中で、学び続ける、心豊かでたくましい子どもの育成」

～校長室からこんにちは～

直接体験は宝!!

立冬を迎え、いよいよ本格的な冬の訪れです。市内では、霜が降りるところもあったようです。しかし、日中の校長室は以前より暑くなりました。「あれっ?」と不思議に感じられるかもしれません。冬という朝夕が寒くなり、昼間の気温も低いのが本来の様子。しかし、なぜ暑くなるのでしょうか。

実は、太陽の高さに違いがあったのです。確かに気温は夏場のほうが高いのですが、夏の日中は、太陽が高いところを移動していきますので、校長室には、直接日差しが入ってくることは全くありませんでした。しかし、今頃になると太陽が低い位置を通り、日差しが直接室内に入り込み、日の光を直接浴びることとなり、暑さを感じるのです。

先日、晴天の下、玄関前のスペースで、3年生がある観察実験をしていました。見てみますと四角いボードの上にストローが立っています。そのストローを中心に放射状の線がいくつか引いてあります。その様子から、理科の学習で太陽の動きについて学習をしているのだとわかりました。自作の観察道具を使って日光によりできる影を頼りに太陽の動きを観察していたのです。

この学習では、太陽は東から上り西へ沈むこと、南に来た時に一番高い位置に来ることなどを学習するのですが、知識を習得するだけなら、タブレットの普及が進んだ今、動画やさまざまなアプリケーションで学ぶことはできます。しかし、子どもたちの様子を見てみると、なんだかそれだけではなさそうです。方位磁針を使って北の位置を定めることや観察時刻は何時であるか、その時影の先がどこに来ているかグループで確認し合う活動「かかわり」が生まれていたのです。

「かかわり」はICT機器だけの学習ではなかなか経験できないものです。その場に一緒に居合わせる、一緒に体験することを通して、知識を得るだけでなく様々な情報も併せて獲得します。また、知識をより定着させる「きっかけ」も一緒に獲得できるのです。



今、感染症が一向に収まらない中、子どもたちにさせるべき体験がずいぶん削減されていきました。徐々に戻りつつありますが、まだ元通りとは言えない状況です。第8波の襲来が予想されている中、まだまだ感染拡大に気を配らねばなりません。校庭で「共に学ぶ」子どもたちの姿を見て、体験する活動の大切さを改めて感じました。これからも直接できる体験を積極的に学習に取り入れていきたいものです。

